６　総合原価計算での仕損・減損

・仕損－製造途中で失敗し、不良品が発生すること。
・減損－蒸発などにより材料の一部が消失すること。

仕損費、減損費の処理

[完成品のみに負担させる場合
[完成品と月末仕掛品の両者に負担させる場合

の２パターンがある。

正常仕損（減損）が工程のどの段階で発生したかが重要。

① 正常仕損（減損）が工程の終点で発生した場合―仕損（減損）費を完成品のみに負担させる。
② 正常仕損（減損）が工程の始点で発生した場合―仕損（減損）費は完成品と月末仕掛品の両者に負担させる（度外視法）。

（１） 完成品のみが負担する場合

（問題）

次の資料に基づき、月末仕掛品原価、完成品総合原価、完成品単位原価を計算しなさい。平均法を用いること。

〈生産データ〉

月初仕掛品　600 kg（1/２）
当月投入　4,200 kg
　合　計　4,800 kg
正常仕損　150 kg
月末仕掛品　900 kg（2/3）
　完成品　3,750 kg

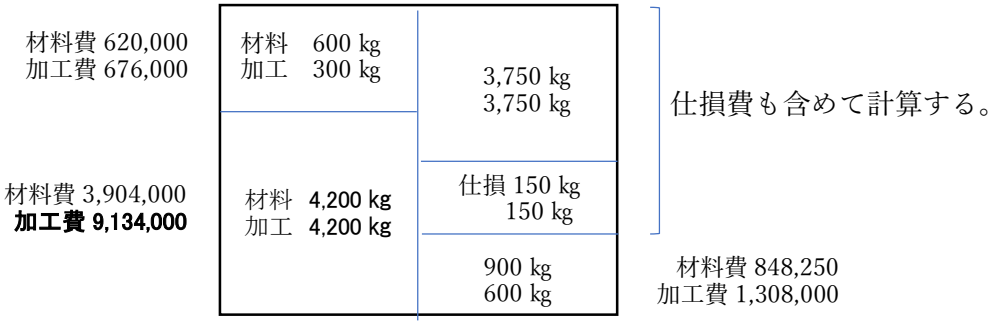
〈原価データ〉

月初仕掛品原価
直接材料費　620,000 円
加工費　676,000 円
当月製造費用
直接材料費　3,904,000 円
加工費　9,134,000 円

なお、（　　）は加工進捗度を示し、材料は工程の始点で投入する。また、正常仕損は工程の終点で発生した。

（解答）

平均法　　仕掛品



完成品材料費＝（620,000＋3,904,000）－848,250＝3,675,750　①

完成品加工費＝（676,000＋9,134,000）－1,308,000＝8,502,000　②

以上より、

・月末仕掛品原価＝848,250＋1,308,000＝2,156,250

・完成品総合原価＝①＋②＝12,177,750 円

・完成品単位原価　12,177,750÷3,750 kg＝3,247.4 円/kg

【注意】

（２） 完成品と月末仕掛品の両者負担の場合

度外視法－正常仕損（減損）の数量を無視して計算し、仕損費（減損費）を月末仕掛品と完成品の両者に自動的に負担させる方法のこと。

（問題）

次の資料に基づき、完成品総合原価と月末仕掛品原価を計算しなさい。先入先出法を用いる。

〈生産データ〉

月初仕掛品	200 個	(1/2)
当月投入	550 個	
合計	750 個	
正常仕損	150 個	
月末仕掛品	200 個	(3/4)
当月完成	400 個	

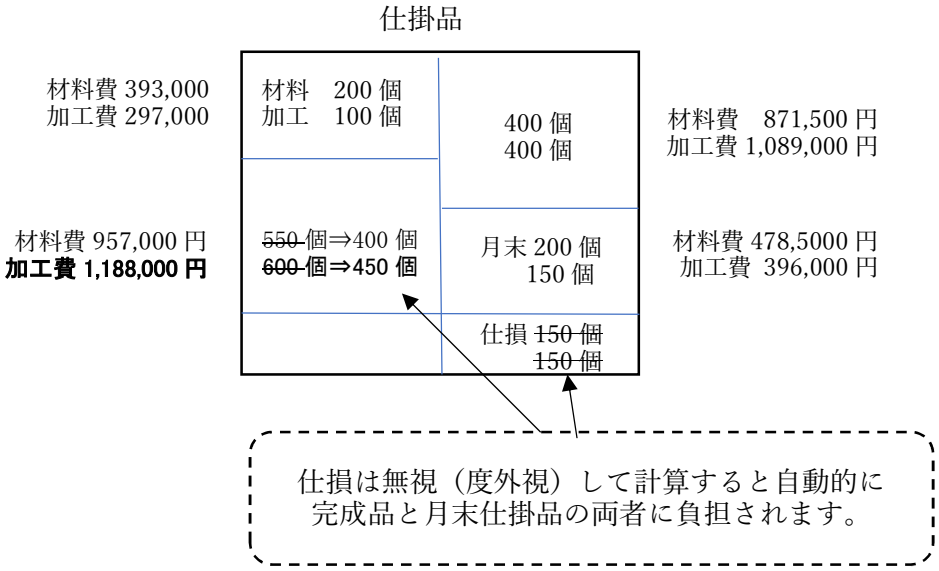
〈原価データ〉

月初仕掛品	
直接材料費	393,000 円
加工費	297,000 円
当月製造費用	
直接材料費	957,000 円
加工費	1,188,000 円

材料はすべて始点で投入している。(　　) は加工進捗度を示している。

正常仕損は工程の始点で発生しており、正常仕損費は完成品と月末仕掛品の両者に負担させる。仕損品の評価額はゼロである。

（解答）



以上より、

完成品総合原価　＝　871,500＋1,089,000　＝1,960,500　円

月末仕掛品原価　＝　478,500＋396,000　＝　874,500　円

※仕損品に評価額（価値）がある場合は、仕損品の原価からその評価額を引いた金額が正常仕損費となる。